

アフリカ地域の国旗クイズプリント【由来→国名】

<p>青は空と海を表し、白は平和、赤は国民の努力を表している。紅白の帶はこの国が作られるまでの道のりを示していて、黄色の10の星はカーボウェルデ諸島の主な島の数である。独立したときには、もともと連合する予定だったギニアビサウの国旗と似通ったデザインだった。</p>	<p>上段の線は経済を支えている豊かな森林を表し、中段の黄色は力と資源を表す。独立後何回か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。緑は国南部にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と北部のサバンナを、赤は南北の団結と耕作地帯を表し、星は栄光のシンボルとなっている。</p>	<p>左から縁・赤・黄の汎アフリカ色で構成される。独立後何回か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。緑は国南部にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と北部のサバンナを、赤は南北の団結と耕作地帯を表し、星は栄光のシンボルとなっている。</p>	<p>上段の赤は太陽を表し、中段の青は国の中流を流れているガニア川を、下段の緑は豊かな農業資源を表している。境目の白のラインは、団結と平和の象徴。大統領の旗は、青地に国章が描かれたもので、旗の周囲が黄色く縁取りされている。</p>	<p>汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成。色の意味はアフリカ諸国によって違いがあり、この国では赤は労働と献身、黄色は正義と黄金、緑は团结と農業のシンボルとなっている。</p>	<p>汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑で構成される。ギニア・カーボベルデ・アフリカ人独立党（PAIGC）の旗ともづいて考案された。黄色は北部のサバンナを表し、緑は南部の森林地帯を表し、赤は海岸地帯を表し、黒星は独立アフリカ党のシンボルとなっている。</p>
<p>旧宗主国であったフランスの影響を受けていて、3本の帯は国の標語である「团结・規律・労働」に対応。左側のオレンジは北部サバンナの繁榮を表し、緑は南部の森林地帯と未来への希望を表現。白は北部と南部の統一と团结を表している。</p>	<p>独立から5回国旗が変わっているが、いずれも新月と4つの星がデザインされている。黄色は太陽と進歩を表し、白は純潔と愛を表す。赤は独立のために流された血を、青はインド洋を表している。また、黄はムワリ、白はマイヨット（フランス領）、赤はグラムドコモ、青はヌスワニの各島を表しているともいわれる。</p>	<p>コンゴ共和国からコンゴ共和国に国名が变成了をさっかに、1958年から1970年まで使用された緑・黄・赤の汎アフリカ色の国旗に戻された。緑は農業と未来への希望、黄色は誠実さと友愛、赤は熱意を表現。1991年までの人民共和国時代にはハンマーとクラブをデザインした赤旗だった。</p>	<p>独立してから6回目の国旗で、1963年から1971年当時の国旗に戻して青の色調を明るく変更。青は平和を表し、赤は独立のために流された尊い血を、黄色は豊かな国を表現している。黄色の星は輝かしい未来のシンボルとなっている。</p>	<p>汎アフリカ色で構成され、中段の黄色は太陽を表し、上下の緑は豊かな農作物を、左側の赤は独立運動と平等を表現している。中央の2つの黒い星は、サントメ島とブリシベ島の象徴である。独立闘争時のサントメ・プリンシペ解放運動の党旗がもとになってできた。</p>	<p>地色の緑は農業と天然資源を表し、赤の縦ラインは自由を勝ち取るために争争を、黒は国民党を、オレンジ色は朝などとの正義を表している。右上の羽を広げたワシは自由と困難に負けずに前進する力を表現。1996年にワシのマークの大きさと地色の緑の色調を変えて現在の国旗になった。</p>
<p>白は平和の象徴で、青は空と海を、緑は地球を、赤い星のマークは国家の独立と統一を表現している。さらに、青はソマリ族イッサ族を表し、緑はイスラム教徒であるエチオピア系のアフアール族を表して、白い三角形で2つの民族が平等に団結することを表現している。</p>	<p>緑は農業と繁栄を表し、黄色は豊かな鉱物資源を、赤は独立闘争で犠牲になった国民の血を表現している。さらには、青はソマリ族イッサ族を表し、緑はイスラム教徒であるエチオピア系のアフアール族を表して、白い三角形で2つの民族が平等に団結することを表現している。</p>	<p>1956年～1970年まではガボンの国旗の色を反対にしたようなデザインだったが、アラブの統一を願って赤・白・黒・緑の汎アフリカ色の国旗を制定した。赤は革命によって流された血を表し、白は平和と未来への光を、黒はアラブアフリカ共和国を、緑の三角形はイスラム教徒の繁栄を表現している。</p>	<p>第2次世界大戦のさなかに、イギリス軍に混じて戦ったスワジ人軍団の軍旗がもとになっている。中段の赤は自由のための過去の闘争を表し、青は空と平和を、黄色は豊かな鉱物資源を表現している。真ん中の紋章に描かれている神木バヤの木と6つの地域を表現した星などである。</p>	<p>独立したときの旗が復活した。左側の青の三角形は本土と島々を結んでいる海を表し、緑は農業と天然資源を、白は正義と調和を、緑は国民党を表している。独立してから3月目になるこの国旗は、政府が調和とすると宣言を改めて現在の国旗になった。</p>	<p>左下から放射状に5色が配置されている、上から順に青は空と海を表し、黄色は太陽を、赤は労働と国民を、白は正義と調和を、緑は国民党を表している。独立してから3月目になるこの国旗は、政府が調和とすると宣言を改めて現在の国旗になった。</p>
<p>地色は水色で中央に白星が描かれる。五芒星は5つのソマリ族の居住地区があることを指して、国土と民族の統一を表現。独立時に国連の努力をたたえる意図で、国連旗の青色を探用した。</p>	<p>タンガニーカとザンジバル両国が合併したので、2つの国旗の旗を組み合わせて作った。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青は印度洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。</p>	<p>旧宗主国だったフランス国旗の因柄に影響を受けていて、真ん中の部分を汎アフリカ色の黄色に変更してきた。黄色は太陽と鉱物資源と北部地方を表し、青は空と希望と南部地方を、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。</p>	<p>フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の縦ラインの赤は、両者が持っている赤い血と情熱のシンボルである。緑は農業と森林の住民を表し、黄色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。</p>	<p>歴史的に間わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていたが、1999年に月と星の大きさを変えた。三日月はフェニキア人の美の女神タヌスのシンボルである。</p>	<p>赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民党と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の横ラインでこの国の5つの地方を表している。独立前は左方にフランス国旗を配置して、旗面に星を2つ配した緑の旗だった。</p>
<p>独立時にコンテストを行い1000ほどの回答が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は新国家建設の決意と明確と独立闘争でされた血を、緑は農業と豊かな国土を表現。白線は和平と統一と繁栄を意味し、太陽は生産と活力を、12の太陽光線はこの国の主な種族の協調と統一のシンボルである。</p>	<p>上段のオレンジ色は北部のサハラ砂漠を表し、中段の白は平和と純潔と潔白を、下段の緑は二重ルルル川沿いの豊かな農業地帯を表現。真ん中の円は太陽を表し、緑は希望と南部地方を、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。</p>	<p>以前オートポルタとして独立果たすが、1983年に革命が起つて國名と国旗を変更した。赤は革命闘争と流された尊い血を表し、緑は農業・林業と富と希望を表現。黄色の星は鉱物資源を表すとともに、革命の原理と指導性の象徴である。</p>	<p>王国時代には真ん中の円の中にモロコシと太鼓がついていたが、革命後に國內のフツ族・トワ族・ツチ族の3部族を表現する星のマークに変更された。赤は独立闘争を表し、緑は未来への希望と発展を、白い円は平和を表現している。</p>	<p>社会主義政権が崩壊したときに独立時代の緑・黄・赤の汎アフリカ色の旗が復活された。黒は南部の森やヤシ林を表し、黄色は北部のサバンナ地帯を、赤は両地域の融合と発展および祖国防衛のために流された血を表す。</p>	<p>雨が少なくて水資源が貴重なこの国の人们にとって、青は恵みの雨のシンボルである。黒と白の横縞は、黒人と白人が協力して平等な社会を実現するという決意が込められている。同様的理由からシマウマはボツワナの動物に指定されている。</p>
<p>以前のメリナ王朝時代（マレー系民族）から親しまれてきた赤と白をもとに、独立時に東部海岸地方のベツィミサラカ人を表す緑色が採用されてきた。赤は愛国と主権を表し、白は純粋さと自由を、緑は進歩と希望を表現している。</p>	<p>アフリカ諸国でよく見かける独立運動を推進したマラウイ会議党的旗の党旗から3色を採用した。黒は国民党を表し、赤は独立運動で流された尊い血を、緑はマラウイの自然を表現している。</p>	<p>旧宗主国であったフランス国旗をもとに汎アフリカ色を採用してできた旗。緑は農業と自然を表し、黄色は金などの鉱物資源を、赤は独立のために流された尊い血と勇気を表現している。</p>	<p>2011年7月に独立して国連加盟国になった。黒はラバウアフリカを表し、白は独立闘争で手にし自由と平和を、赤は革命のために流された尊い血を、緑は豊かな国土を表現。青い三角形はナイル川を表し、黄色のベツレヘムの星は国民の团结の象徴である。</p>	<p>かつてのモザンビーク解放戦線旗に国章の一部を配した图案。赤は植民地解放闘争を表し、緑は農業を、黒はアフリカ大陸を、黄色は鉱物資源を表現。白のラインは平和と正義のシンボルとなっている。</p>	<p>独立以降国旗の変更はない。上段から順に赤は独立ために流された血を表し、青は印度洋を、白は太陽の光と自由を、緑は農業を表現している。独立以前はイギリス国旗が旗の上部に配して、旗面に紋章をついたデザインだった。</p>
<p>赤旗は今の王朝が300年以上使用していて、20世紀の初めにソロモンの印章というイスラム伝統の色彩で描かれた紋章を配した。市民用の海上国旗には、旗竿の上部に黄色の王冠がデザインされている。</p>	<p>政権交代によって王政期時代の旗を再び使用。赤はエザン地方と剣と力を表し、黒はキレナイカ地方とイスラムの闘争を、緑はトリボリニア地方と高潔を表現。真ん中の白い新月と5角星はイスラムの象徴である。</p>	<p>アメリカ合衆国で解放された黒人の奴隸が国を作ったので、星条旗の影響が大きい。11本の紅白の線は、独立宣言に署名した11人を表現している。</p>	<p>1999年にルワンダ政府は国旗を変更するよう決めたが、2年かかってようやく制定された。青は青空と平和を表し、黄色は経済の発展と協調を、緑は農業と繁栄を、右上の金色の太陽は未来への希望と統一と無知との戦いを表現している。</p>	<p>1966年以降3つの旗で、独立したときのレント帽のデザインを復活させた。青は空と雲を表し、白は平和を、緑は豊かな国土と繁栄を、黒はアフリカ大陸を表現している。3色の構成は、3:4:3で真ん中の白いラインが幅広になっている。</p>	<p>モーリタニアに限らず、国旗にはその国の文化や歴史、宗教が色濃く反映されている。地色の緑と、三日月と星はこの国がイスラム教国であることを意味する。かつての旗は、オランダ旧国旗の中にイギリスなどの3つの国旗を並べたものだった。</p>
<p>1920年代に反フランス運動の指導者となったメッサリ・ハジが作り、民族解放戦線の旗として独立を国旗にした。この地域では、新月と星は幸運の象徴といわれている。</p>	<p>上段の線は経済を支えている豊かな森林を表し、中段の黄色は力と資源を表す。独立後何回か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。緑は農業と未来への希望、黄色は誠実さと友愛、赤は熱意を表現。1991年までの人民共和国時代にはハンマーとクラブをデザインした赤旗だった。</p>	<p>左から縁、黄・赤の配色になっていて、古来からエチオピアで使用されたなじみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったで汎アフリカ色と呼ばれていた。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。</p>	<p>上段から縁、黄・赤の配色になっていて、古來からエチオピアで使用されたなじみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったで汎アフリカ色と呼ばれていた。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。</p>	<p>上段から縁、黄・赤の配色になっていて、古來からエチオピアで使用されたなじみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったで汎アフリカ色と呼ばれていた。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。</p>	<p>上段から縁、黄・赤の配色になっていて、古來からエチオピアで使用されたなじみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったで汎アフリカ色と呼ばれていた。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。</p>